

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。
お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
絵表示の例
● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解・修理・改造禁止）が描かれています。
● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 警告
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。
● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと。
● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと。
● アースを確実に取り付けること。
● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。
● メタルスズリ、ワイヤラスズリ、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズリ、ワイヤラスズリが電気的に接触しないよう取り付けすること。
● 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。
● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。
● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること。
● 交流100V以外では使用しないこと。
● 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること。
● 電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。

- 注意
● 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること。
● ファンや部品の取り付けは落下によりけがをするおそれがあります。
● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと。
● 周囲温度が40℃以上になるとは取り付けないこと。
● 運転中は指や物を絶対に入れないこと。
● 作業は2人以上でおこなうこと。
● 重量は約30kgの重さがあります。
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと。
● 周囲温度が40℃以上になるとは取り付けないこと。
● 運転中は指や物を絶対に入れないこと。
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと。
● 周囲温度が40℃以上になるとは取り付けないこと。
● 運転中は指や物を絶対に入れないこと。

取り付け上のお願い
● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
● ダクトの不燃処理について
● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h 時 50Pa以下のもので使用してください。
● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
● 製品組立時のねじ取り付けの際は、インパクトドライバー等できつく締めすぎないでください。
● 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けてないでください。
● 湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

取り付け前の調査と準備
警告
● 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないでください。
● レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けすること。
● 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。
● レンジフードの壁への埋め込みはしないこと。
● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと。
● 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること。
● 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと。
● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。
1 取付面の強度確認
2 吊りボルトの設置
3 別売部品の準備
4 標準取付寸法
5 電源コンセント・ブレーカー

製品寸法図
（単位：mm）
電動シャッター取付用コネクタ
100V出力用コネクタ（SRS-100V）
ダクトカバー（DCB-115）を使用した場合
ダクトカバー（DCB-195）を使用した場合
ダクトカバー（DCB-195）を使用した場合
ダクトカバー（DCB-195）を使用した場合

1. 付属品の確認
注意
● 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること。
● 作業は2人以上でおこなうこと。
1 前カバーに固定テープを貼り付けている取付説明書を取りはずします。
2 取付説明書が包装されているポリ袋から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

2. 取付準備
警告
● メタルスズリ、ワイヤラスズリ、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズリ、ワイヤラスズリが電気的に接触しないよう取り付けすること。
● 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと。
● 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと。
● 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと。
● 周囲温度が40℃以上になるとは取り付けないこと。
1 製品寸法図を参照し、事前に管工業者へ「法的有資格者」へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
2 φ150のステンレスダクト、またはスチールダクトを図のようにレンジフードの上側に突き出すようにセットし、周囲を仕上げます。
3 M10またはM12の吊りボルト（取付作業側手配）を4本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。

3. 本体の準備
1 整流板をはずします。
2 誘導カートリッジをはずします。
3 ケーシングの前カバー・後カバーをはずします。
4 フードとケーシングを分離します。
5 フードを取りはずします。

4. 本体の取り付け
注意
● レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと。
1 レンジフードの固定位置を決めます。
2 ダクトカバー（別売部品）を取り付けます。
3 吊りボルトにマジックペンなどで、天井からの吊り位置にマーカをつけてください。
4 ダクトカバー（別売部品）を取り付けます。
5 M10またはM12のナット（取付作業側手配）を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。

4 ケーシングを吊りボルトに固定します。
5 ダクトカバーとケーシングを固定します。
6 フードを取り付けます。
7 ダクト接合部へ風漏れ防止のテープ（アルミテープ）をおこなってください。
8 排気口設置部の漏風確認のお願い





裏面に続きます

**こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。**

取り付けかた（つづき）

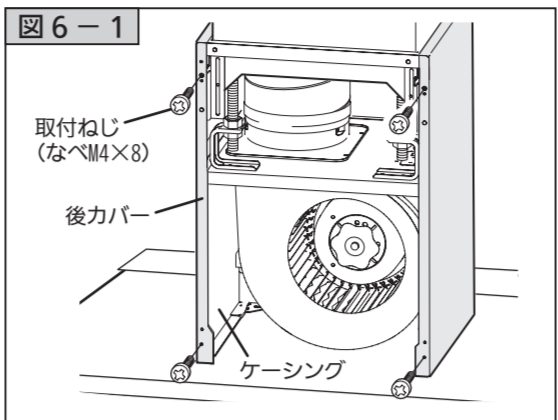
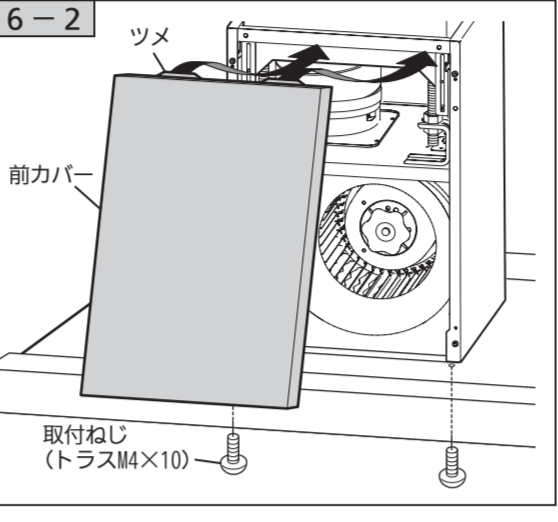
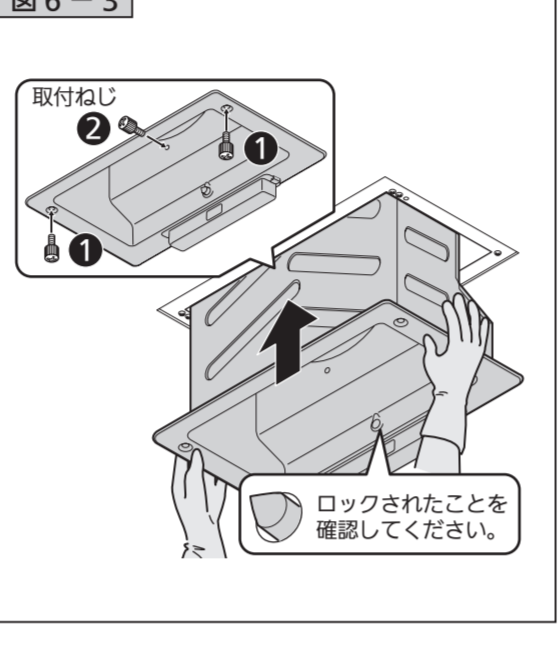
5. 電気配線

⚠ 警告

-  ● 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
-  ● 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
-  ● 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が
工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
-  ● アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください


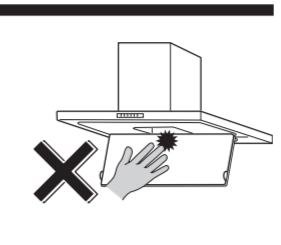
- 1** アース（D 種接地工事）を取ります。
※アース線は取り付け作業側にて手配します。
- 2** 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
お願い
・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを
設けてください。
・コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

6. 運転準備

- 1** ケーシングに前カバー・後カバーを取り付けます。（図 6-1）
1) 各部品が確実に組み立てられているか確認した後、ケーシングの後カバーを「3. 本体の準備」手順 3 の 2) にはずした取付ねじ（なべ M4 × 8）4 本で固定します。

- 2** 前カバーは上部のツメを引っ掛け、下側を取付ねじ（トラス M4 × 10）2 本で固定します。（図 6-2）

- 2** 誘導カートリッジを取り付けます。（図 6-3）
1) 誘導カートリッジを両手で持ち、開口部に差し入れます。
内側奥にあるストッパーで固定されるまで、まっすぐにゆっくりと差し込みます。
※誘導カートリッジがストッパーで確実に固定されたことを確認してください。
2) 取付ねじを ②、① の順番で固定します。
お願い
誘導カートリッジはゆっくりと差し込んでください。キズ・変形の原因になります。

- 3** 整流板を取り付けます。
「3. 本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。
お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。


7. 試運転

⚠ 注意

-  ● 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気口が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

【製造元】  富士工業株式会社
 本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1-9
 TEL 042(768)3754（営業部）